

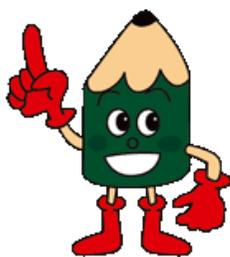


みなみおか

第 25 号
2021. 2. 1
発行



1/18 安心して使うために知っておきたいネットのリスク!



この週末に、1年生から5年生までが使用するタブレットが学校に届きます。1台1台にパスワード等をセッティングして、5年生から順次配付していく予定です。そこで、子ども達が安心して使うことができるようにするため、**大阪府教育委員会のネット対応アドバイザーの篠原嘉一さん**を招いて、タブレットやインターネットについて知る情報モラルの学習会を開催しました。

3年生以上対象に45分間の講話(5時間目3,4年,6時間目5,6年)でしたが、難しい言葉もよく理解して、しっかりと聴いて考えることができました。内容は、ネットの仕組みやSNSの機能や被害など、どうすれば防ぐことができるかという話でした。そこで、保護者の皆様と一緒に考えたいこともありましたので、紹介したいと思います。

①アプリケーション(アプリ)には年齢使用制限がある。

タブレットやスマホを活用するために、アプリをダウンロードします。そのアプリの横には「13+ [13歳以上という意味]」というような表示があります。これは、年齢制限の事です。例えば、よく使っている「LINE【ライン】」は12歳以上、「Twitter【ツイッター】」は17歳以上、「YouTube(ユーチューブ)」は18歳以上となっています。また、ゲームでもよく子どもたちが口にして「あつまれどうぶつの森」は5歳以上、「荒野行動」は17歳以上、「フォートナイト」は15歳以上などとなっています。これは、言い換えれば年齢制限があるのに子ども達がやっているとすれば**保護者が責任をもってさせていることになるので、ゲームやSNS上でトラブルがあった場合は保護者の責任となります**、という意味だそうです。これらのアプリは当初もう少し年齢が下げられていたようです(LINEは5歳以上)が、幼い子ども達の命が脅かされる事案があったり、トラブルがあまりにも多すぎるので、自己判断ができる年齢になったら使えるようにと引き上げられたそうです。

子ども達には、もし使っているとしたら、何かあるとお母さんやお父さんに迷惑がかかるので、よく考えようとおっしゃっていました。



②2回クリックすると契約が成立することになる。

アプリをダウンロードするとき、はじめに「ダウンロードしますか」と聞いてきます。「はい」をクリックします。次に「以下のことについて同意しますか」と聞いてきて、長い文章を読むこととなります。大抵の人は長い文章を適当に読んで「同意します」をクリックします。これで契約は終了となり、全てのことに納得してこのアプリを使うこととなります。日本は判子社会でしたが見直しが進んでいます。判子を押すときには、いろいろ考えて大丈夫かと思いつつ押しますが、2回のクリックではそんなことも思わず契約してしまう人も多いでしょう。あとで、そんなはずはなかったと気付いても、時すでに遅し・・・となります。だから、最初のクリックは「契約」だと認識して、しっかりとよく考えてクリックするよう心がけましょう。小学生の間は自分で契約しないことが大切です。

③アプリをダウンロードしたときに、設定をきちんとしましょう。



それぞれアプリやタブレット、スマホにはいろいろな設定機能がついていて、その設定をしておかないと、自分の所持している情報が勝手に相手側(アプリを運営しているところ)に渡ってしまうこととなります。よく知られているのが、「位置情報」設定です。今や当たり前になっていますが、「位置情報」は必要な時にはON、使わない時にはOFFにしておかないと、自分の情報が秒単位で記録され、それを第三者に渡してしまうこととなります。それによって、その人の毎日の行動が読み取れ、トラブルにつながるようです。アプリをダウンロードしたら、設定機能をよくみて、トラブルにならないよう設定をしておくことが自分を守ることとなります。

④一度ネットにあげると、永遠に消せない。

子どもは深く考えないで行動することが多く、それによって痛い目に合ったり叱られたりしながら学び、自分を守る行動がとれるようになってきます。小学校に入学したら交通事故で命を失わないようにと、交通ルールを守ることを一番に教えますが、このネットの世界も交通事故以上に危険がいっぱいです。ただ、怖いというところを感じることができないので、それがこれまでの「失敗」と異なってきます。自分の変顔をSNSに投稿したら、それは大きくなって一生消すことができず、検索すると誰にでも探すことができってしまうということになるのです、自分のことを自分で投稿して後悔するのならまだしも、友だちが後ろに写っているのにSNSにアップして裁判になることもあり、損害賠償請求は保護者にされます。とにかく、広い視野を持って、



正しい判断ができない年齢では使わないことが一番です。

⑤世界中の国々がアプリをつくっているのに、日本の考え方で判断しない。

アプリは日本のものだけでなく、世界の国々が作っています。だから、何も知らずにダウンロードすると、自分の情報をその国に渡してしまうことになります。日本の国では企業が作っているアプリを使っているとしても、その情報は無用に転用されません。よく、「知り得た情報は〇〇以外に使いません・・・」のような文言があり、自分の情報は流出されないと安心できます。しかし、中には国が作っているアプリもあり、自分の情報の扱われ方が国によって違う場合もあるのです。だから、どこの国が作っているアプリかを知って、その国の考え方等を熟知した上で活用することを進めます。それには、大人でも判断できないこともありますので、本当によく考えないと後悔することもあると思います。

他にも知っておくと役に立つ情報がたくさんありました。

あるアプリの話でしたが、このアプリは絶対使わない方がいいということでした。そのアプリをダウンロードしたときから、カメラ機能が動いて自分の顔が常に相手に取られている可能性が大きいとのことでした。



ゲームをしながらつぶやくことも多いがどんどん熱くなってきてついついつぶやいた一言で「脅迫された」と訴えられたり、「いいね」を押すだけつながら自分の情報が相手に流れてしまう可能性もあるということ、自分の電話帳に「おじいちゃん、おばあちゃん」という名前で電話番号を登録しているとそれが「おれおれ詐欺」につながる、など書ききれないほど学ぶことができました。

6年生が12月からタブレットを使い始めましたが、SNSも使えないし、Youtubeも見ることができません。かなりのセキュリティをかけたタブレットですが、いくらでも抜け道があるようです。だから、抜け道が見つければセキュリティをかけるなど様々な方法で子ども達を守ろうとしています・・・。タブレットを管理している豊中市教育センターも四苦八苦しなから対応しています。

これからの社会を考えるとネットやコンピュータを避けて通ることはできません。だからこそ、今回配付するタブレットを上手に活用できる人になってほしいと思っています。セキュリティをかけて守ってはいますが、いずれは自分で自分をまもることになりますので、まずは「持っているけど使わないがまんをする力をつけること」「不便を経験しながらタブレットの機能性を知っていくこと」「人と上手にコミュニケーションとれる力をつけること」から始めましょう！